

令和4年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

[評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)]

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
教育活動全般	1	分掌活動	分掌組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な分掌運営に協力できたか	A	<p>【全体として】「ICT活動の推進」「働き方改革に向けての業務の見直し」が進められた。本校は教員数が少ないため、今後は分掌の枠にとらわれず、プロジェクトベースで改革のきっかけになるようなしくみを作っていく必要がある。</p> <p>①特進再生プロジェクト ②放課後+とはタイムプロジェクト ③募集広報改革プロジェクトなど具体的に検討していきたい。</p> <p>【生徒課】生徒主体で動くことは大事だが、生徒指導の在り方については、規約に則った指導ができるよう教員への周知を徹底するなど改善が必要である。人としての基本である挨拶や言葉遣いなど、きめ細やかな指導を継続しつつ、学校全体が1つのチームとして生徒を支援していけるよう情報共有に努めたい。</p> <p>【教務課】不易流行を見誤らず時代に合わせて変化を厭わないこと、働き方改革につながることを意識して「各種規定・運用のアップデート」を行った。昨年度の中学に続き、今年度は高校1年生の「観点別評価(成績評価)」が始まった。次年度からは「中間テストの廃止」など大きな変化があるので、学績システム更新の準備を進めたい。</p> <p>【進路課】担当が変わっても困らないよう、仕事の手順をマニュアル形式で保存した。今年度から附属高校入試が始まったが、常葉大学以外に国公立や中堅私大への合格者も増やしていけるよう、学校をあげての指導体制作りが必要である。就職希望者に関しては全員が内定をいただけたので、次年度は会社見学や企業研究の重要性を認識させた上で、面接指導にも注力したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の方々の頑張りが伝わってきます。ただし、プロジェクトの活動が逆に負担となり、働き方改革の本来の意味と逆行してしまわないか心配です。 ・「働き方改革」は社会の趨勢ですが、一步誤ると競争に負けてしまいます。私学だけにその点がとても難しいです。 ・誰にでも挨拶のできる生徒になってほしいです。 ・現在の分掌と新プロジェクトの構想とうまく絡み合わせながら、更に特色ある教育環境づくりに期待します。 ・生徒の情報を共有し、学校全体で応援、指導して下さるところが大変有難いです。
	2	学年運営	学年組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な学年運営に協力できたか	B	<p>【1年部】学年主任を中心に組織的にはバランスよく運営されていた。「未来手帳」を活用し、「学習の取り組みを見える化」させ、アドバイスが必要な生徒には積極的に声かけを行った。次年度は学年集会や学年企画の充実を図りたい。</p> <p>【2年部】朝読書の習慣づけや昼食指導など情報共有しながら学年運営を行うことができた。朝読書は1日のスタートとして大切な時間であり、廃止となるのが残念。(来年度からは放課後の「とはタイム(仮称)」で読書も可能となる。)生徒指導においては、「いいものはいい、ダメなものはダメ」ときちんと伝え、規範意識が育つようぶれない指導が必要だと感じる。来年度は最上級生として学校を引っ張っていく立場となるので、他学年との交流を密にし、学校全体をリードしたい。</p> <p>【3年部】進路実現、自己実現のための講座を積極的に取り入れると同時に、個々に応じた進路指導を行った。面接練習や、志望動機書の作成、小論文の添削指導などは教員団で分担し、きめ細やかな指導ができた。今後は補習にも力を入れ、学力向上を目指したい。</p> <p>【中等部】キャリア教育は年々充実し、協力体制も整ってきている。中学2・3年生で行っている総合学習「シズクリ」では子供達はもちろん、教員団にとっても明らかな成長や変化が見られ、「生徒と共に学ぶ」という中等部の方針にも合った取り組みである。中学の特色教育の柱として対外的にもアピールしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来手帳」というネーミングがとてもいいですね。計画性を持たせるのは非常に大切なことだと思います。 ・読書を習慣づける時間は、時間帯を変更しても是非とも残していただきたいと思います。 ・進路指導はきめ細かく熱心に行っていただき、多くの生徒が志望校に合格しています。
	3	コース・系列運営	コース・系列組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な運営に協力できたか	B	<p>【全体として】コース・系列の特色を明確に打ち出し、3年間でどのような生徒を育てるのか、まずは教員間できちんと話し合う必要がある。連携講座の内容も見直す時期に入ってきているのではないかと。生徒にもゴールイメージを常に意識させながら学校生活を送らせたい。</p> <p>【看護系列】3年生の看護医療模試は円滑に進められた。コロナ禍で「1日ナース体験」は中止になってしまったが、申込み等の手続きはスムーズにできていたので、次年度につなげたい。</p> <p>【医療・健康系列】昨年度までコロナ禍でできなかった実習が少しずつ可能になり、1年生はリハビリテーション病院に出かけ、実際のリハビリの現場で実習を行うことができた。</p> <p>【保育系列】保育現場の人手不足もあり、進学も易化傾向である。だからこそ「保育職に就くにふさわしい人間性を磨く」という部分に主眼をおいた指導が必要である。「エプロンアター」や「オペレッタ」などは保育系列の特色ある教育活動としてもっとアピールしていくと良い。保育士を目指す生徒に何が必要なかを考え、より充実した3年間にするためカリキュラムを引き続き検討し、「とはは、たちばな幼稚園」との連携をはかしていきたい。</p> <p>【総合進学系列】座学中心の活動が多かったため、次年度は体験的な学習も増やしたい。</p> <p>【特進コース】1年生は調べ学習やプレゼンの資料作成など、積極的にiPadを活用できた。また「アドバンスゼミ」や、「夏休みの大学見学」は進路意識を持たせる上で大変有効だった。来年度は県内国公立大学の見学を実施したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年先のゴールイメージにつながる一貫性のある道づくりを今後とも是非充実させてください。
	4	教科活動	教科の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な教科の運営に協力できたか	A	<p>【全体として】新課程において、各教科で授業改善のための意見交換や、学習指導の仕方、評価の基準設定など様々な面できちんと情報共有を行うことができた。観点別評価が始まり、思考力や表現力を問う学習活動が増えているのはとても良いと思う。来年度から全クラスのWi-Fi環境が整い、高1が全員iPadを持つので、ICTをできる限り活用し主体的な学習活動ができるよう工夫したい。中学生のように学習活動の一部にiPadがあるのが当たり前になっているのが理想である。</p> <p>【国語】生徒の学力向上に資する取り組み等について発信し、科全体で共有するよう心掛けた。</p> <p>【数学】単元によっては数学でも探究的活動が可能だった。生徒が不思議だと思うことを追求して、解明していけるような活動を今後も実践していきたい。</p> <p>【英語】中学英語を体系化し、グローバル教育をより活性化させようと努めてきた。英語で行事の振り返りをさせたり、英語とキャリア教育を組み合わせるといった工夫をしてきたが、まだまだ改良の余地がある。せっかくネイティブが2名もいるのだから、その力を借りて、効果的なオーラル授業を展開したい。</p> <p>【社会】すべての学年でNIE(新聞を使った教育)を行った。高3は主権者教育(静岡県理事を招いての授業)、高2はSDGs教育(朝日新聞のサイトに投稿)を行った。高1は新聞記事を読んでまとめた自分の意見をポータルフォリオに残した。新教科「歴史総合」の授業を実施した。</p> <p>【情報】ワープロ検定を推進した。</p> <p>【体育】生涯体育を目標に、体を動かすことが楽しいと思えるような授業や行事の充実を目指した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校ではiPadを利用することで従来の授業が様変わりしました。iPadの有効活用に期待します。 ・個人プレーにならない常葉の教育に沿った授業や評価を今後も継続してください。

学習指導・教務関係	1	教科指導	生徒の学力の定着、向上や学習意欲を引き出し、生徒の満足度の高い授業実践ができたか	B	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方通行ではなく、生徒と教員が相互で共有できる授業展開を目指した。ICTも補助的に取り入れ飽きさせない工夫をした。まだまだ発展途上であるが、生徒の満足度を高めていきたい。 学力養成のための授業スキルを教員間で共有し、すべての生徒に還元する流れを作ることができた。一朝一夕に結果が出るものではないので、一過性のものに終わるのではなく、確実に継続していきたい。 まだまだ「テストのための学び」になっていると感じる。来年度からは中間試験が廃止されるので(高校)、生徒たちが主体的に考え、力を伸ばせるような仕組み作り、環境作り、評価作りをしたい。授業中に生徒たちの元気な発言や嬉々とした表情を見たい。 <p>【理科】授業ではプリントを用いて生徒が主体的に学べるよう工夫した。iPadを使用してデータを集計したり、探究活動ではパソコンでスライドを作成しプレゼンする場を設けるなど工夫した。次年度はもう少し実験を増やしたい。</p> <p>【数学】授業進度や内容をクラスの真ん中より少し上に合わせていることを意識したが、上手くできるクラスとそうでないクラスに分かれてしまった。放課後の補習指導は昨年度から継続して実施している。特に中学3年生には高校進学を見据え、中学内容の復習を行った。基本的な計算テストを実施し、わかるまで繰り返し再試を行うことで、学力の定着を図ることができた。</p> <p>【国語】確認テストを繰り返し行って、基礎力の定着を図った。読解問題に関する応用力を鍛えるため、教科書準拠の問題集以外に多種多様な問題に取り組ませることを意識して課題を作成した。来年度はグループワークやディスカッションなど積極的に取り入れられるとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科ごとに授業研究を主として、教員同士が互いの授業を見学しあうようなことはされているのでしょうか。教員にとっては大変なことですが、確実に授業力が向上します。授業力が上がれば、自然と子どもたちに学習の楽しさが伝わると思っています。 <p>⇒《学校より》</p> <p>日常から、すべての授業を原則「授業参観可」としております。また、年に一度以上、全教員が「公開授業」を設定し、常に教員同士が授業を見合える機会を作っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験の重要性を理解していない学生が年々増えているように思っています。自分の学校でも再試験、再々試験の対象者が例年になく多く、試験内容が同じでも点数の伸びがみられず、この試験に合格することが進級要件になるという意識が薄いと感じます。 「これを学んで何が出来るようになるのか」「学んだことをどう生かせるか」、それを知って学ぶことは大切だと思います。 生徒の興味を引き出すための環境整備、教員間での授業スタイルスキルのシェアなど、この熱心な姿勢を継続していただきたいです。
	2	授業規律	私語や居眠り等を放置せず、落ち着いた雰囲気を作って授業が実施できたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業中は真面目に取り組む生徒が多く、落ち着いている。反応が控えめなクラスもあるが、観点別評価も導入されたので、いろんな観点から生徒の取り組みを観察し、評価するよう工夫している。 授業の目的を「学力向上」と「人間力向上」と定め、規律正しい環境を作り出すことができたと思う。 生徒が今すべきことに集中できるよう、「アイデアを考える時間」と、「作業的に進める時間」とをきちんと区別し、言葉に出して伝えるよう心がけた。 自分のクラスの実態を正確につかむため、学期ごと教科担当者にアンケートをとり、生徒一人一人に対し、頑張った点や努力したい点などのコメントをもらい、面接等で伝えた。 ごく一部に自分勝手な言動で周囲に迷惑をかける生徒がいたのは残念だった。真面目に取り組んでいる生徒が不利益を被ることがないよう、そういった生徒への指導、声かけを徹底していきたい。 空き時間にはできるだけ校内の見回りを実施した。集中力が続かず落ち着かない生徒にはその都度、いろいろな教員から様々なアプローチで話をすることが必要だと感じた。見て見ぬふり、放置は厳禁。教科で気づいたことがあれば、些細なことであってもその都度担任に報告することを徹底していくべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で過ごし、定期試験のやり方にも苦慮したここ数年の影響なのではないか。「学力向上」「人間力向上」を授業の目的とする点に共感します。 子どもたちの興味、関心をひく課題を提示することで(これをするには周知な準備が必要ですが・・・)自然と学ぶ姿勢が生まれてくるのではないのでしょうか。授業のひとつ工夫が大事だと思います。 正論ですが対応が難しいと思います。担任が1人で戦うといったことにはななってほしくありません。 担任が教科担当者と連携して生徒を多面的に理解するのは大変良いことだと思います。周囲のやる気をそいたり、妨害する生徒は、徹底的に姿勢を改めさせるべきだと思います。
	3	欠席・遅刻抑止	遅刻・欠席が多い生徒の状況把握や改善への働きかけができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> きずなネットでの欠席連絡が主流となり、状況把握がしやすくなった反面、保護者と実際に話をする機会は減ってきている。言葉を交わすことで伝わる想いもあるし、学校、家庭でなくてはわからない様子も互いに情報提供することができる。必要があれば学校から積極的に家庭に連絡を入れていきたい。 欠席した生徒に授業の遅れが生じないよう、授業動画を撮影しておくなどの配慮を行った。欠席が多い生徒に関しては早めに欠課時数を確認して、注意を促したい。 遅刻、欠席の多い生徒に関しては保護者と連絡を密にとるように心がけたが、登校を促す働きかけが難しく、改善には至っていない生徒もいる。 学級担任と教科担任が密に連絡を取り、欠課時数等の状況共有に努め、指導が後手に回らぬよう心がけた。また気になる様子が見られた生徒は放置せず、その場で声をかけるなど積極的にコミュニケーションをとるよう意識した。 本当に体調不良で休む場合と、やる気スイッチが入らない場合の休みがある。学校に登校できない日が長期間続けば本人はもちろん保護者も苦しむ。「原因は何か？」と問われても本人にも答えられないことが多い。スクールカウンセラーや養護教諭の手も借りて、じっくりと話が聞ける環境・機会を作り、本人や親御さんに寄り添えるよう努力した。今後も学校や教員がサポートできることを考えていきたい。 	
	4	読書指導	朝読書が落ち着いてできるよう、クラス内の雰囲気作り(担任)、遅刻者指導(副担)を徹底できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書や朝学習に関して、生徒達は真面目に落ち着いて取り組むことができていた。 読書時間を静謐なものとするために校内巡視をしながら遅刻した生徒がクラスの雰囲気を壊さないよう、別室に誘導した。遅刻者カードを書かせるだけでなく、体調や遅刻理由などを問い、コミュニケーションをとるよう心掛けた。 どうして朝読書するのかを一緒に確認し、ONとOFFを切り替える手立てとして活用した。 副担であっても積極的に教室内に入って指導できるようにした。 担任が早めに教室に行き、生徒と一緒に読書を始めることで、クラスの雰囲気を作ることができた。自分が読んでいる本やオススメの本を紹介したり、教室に本棚を置いたりすることで、生徒達の読書への関心が高まるよう工夫した。 読書好きの生徒が多いようで、朝だけでなく、休み時間にも本を読んでいる生徒をよく見かける。 前年度の指導が行き届いている学年は、時間前には提出物(健康チェック表・課題ノート・貴重品等)がまとめられ、時間になれば席に着き、本当に静かに読書を始めることができていた。初期指導の大切さを感じる。 ようやく朝の読書が定着してきたのに廃止されるのは、返す返すも残念である。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書の時間の確保をぜひお願いしたいです。 朝の読書がなくなるのは残念です。その時間は何か他のものが入るのですか。 「朝読書」が廃止される理由は何なのでしょう。 心を落ち着かせる自分の内側をしっかり見つめるための時間として、朝読書からスタートするのは、常葉の特徴でした。廃止は誠に残念、早急に復活を願います。 <p>⇒《学校より》</p> <p>「朝読書」は「一日を落ち着いた雰囲気の中で始める」という点で大変意義深いものですが、時代が求める学力をつけさせるべく、生徒が学校において「自ら課題設定し、自発的・探求的に学ぶ」ことができる時間を放課後に創出するため、「朝読書」の正課における廃止を決定いたしました。但し、長く朝読書指導に取り組んできた中で、その効果の大きさは強く感じているため、正課外の「8時15分からの朝読書を推奨」というかたちで「継続」していきます。</p>

生徒指導・総務関係	1	生活指導	服装・頭髪等の違反者の生活指導や、言葉遣い、挨拶などマナー教育が徹底できたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝生徒の登校時に、副担の先生方で正門、各階で声掛けの指導を実施した。(服装の乱れの確認、その場で声かけ指導。) 今年度から風紀検査を月に1回でなく、学期に2回を目安に、各学年の実情に応じて実施できるように変更し、目的を明確にできるようにした。今後も学年の状況を見ながら適切なタイミングで行えるようにしたい。 リボン・ネクタイ、夏期のクールビズ等の制服着用の組み合わせが変わったことによって、一部、きまりを間違えて認識し、服装違反の指導を受ける生徒がいた。全体を見ると指導を受ける生徒は少なく、特に頭髪の違反者は少なかった。 時代の流れを意識し、校則の見直しを始めた。その一方で、きまりが変化していく中、教員間での認識不足があった。情報共有をしっかりと、徹底した指導ができるようにしたい。 コロナ感染でいくつかの集会在放送に変更になり、ジャケットの着用が徹底できなかつた。TPOを学ばせるうえでも大切なことなので、意識させたい。 生活指導においては、生徒課の教員に丸投げではなく、より身近にいる担任が毎日の生活の中でしっかり指導していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校則でいろいろとルールが示されていますが、なぜこのようなルールになっているのか、子どもたちに改めて考えさせたいです。ルールの必要性を問うてみたらどうでしょうか。その上で見直しが必要であれば改善していければいいと思います。 今年度の自己評価は厳しい見方をしていると思います。それは更に上を目指そうとする意思の表れだと感じます。 人の考え方は様々で、全ての人が満足する学校は理想でしかないと思われがちですが、それを実現しようと努力している熱意を感じました。 人と会った時、食事、感謝など挨拶のできない大人が増えていきます。挨拶が自然にできる生徒の存在は大切です。 生徒との信頼関係を保つためにも、大変ですが先生方の情報共有と認識の統一をお願いいたします。
	2	学校行事	生徒を主体的に動かし、各行事のリーダーを育成することができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対応で制限が多かった学校行事であるが、今年度は少しずつできることが増えてきた。芸術祭や体育祭、中等部の合唱コンクールなど、保護者の参観が可能になったのはとても良かった。次年度はコロナ以前のように保護者に生徒の活動を見ていただく機会をもっと増やしていきたい。 これまでは教員が考えた企画案に沿って生徒を動かす形が多かったが、今年度は文化祭や芸術祭など各種行事で企画リーダーとコミュニケーションを取りながら運営したことで、生徒のモチベーションが高まったと感じる。今後も生徒会を中心に、生徒主体での取り組みを増やしていきたい。 自分から積極的に行動できる生徒とそうでない生徒に差がある。ただし自分に自信がないだけで、機会を与えることにより目を見張るような活躍をする生徒もいた。教員の声かけや後押しで殻を破れる生徒もたくさんいるということを念頭に置き、生徒の意識が変わるように今後も働きかけをしていきたい。 経験や知識が少ない分、失敗することもあるが、そこから学ぶものも多い。成功体験を増やしていくことで自信が持てるようになるので、教員は裏方としてサポートする体制ができるとよい。 中学で行っている「リーダーシップ研修」では、上から指示をするのではなく、チームみんながリーダーとなって取り組む大切さを生徒に理解させることができた。そこで学んだことがキャンプなどの縦割り活動でも活かされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業だけが学校生活ではありませんので、このような学校行事を通して子どもたち一人一人が持つ良さや可能性を伸ばしてあげることができればいいかなと思います。 コロナ禍で行事やイベントにも多くの制限がかかる中、リーダーの育成は難しい点だと思います。しかしこのような時だからこそ、生徒の自主性や積極性を削がない指導が必要です。その中から自分がリーダーに向いているのか、又サポート役に適しているのか、自己分析していけばいいのではないのでしょうか。 先生方はチームとして更なる前進を目指して下さることを心から願います。応援しています。 保護者の参観機会が復活していくことを願います。 方向性の転換により、生徒の積極性や創造力を引き出すのは大変良いことです。積極的な次回への目標設定にもつながります。 生徒の潜在能力を引き出すのが常葉の教育の特長です。
	3	教室・校内美化	清掃指導を徹底し、教室や校内の美化に努めることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 全員が気持ちよく生活する公共の場所であるということを年度当初にきちんと説明したうえで、清掃のやり方を徹底させるのが効果的であると思われる。清掃場所ごとに清掃の仕方をマニュアル化しておきたい。 真面目に清掃活動に取り組んでいる生徒が大半だが、清掃場所に対して生徒の数が多すぎるので人任せにする生徒も出てきてしまう。今後は当番制で清掃を行うことも考慮していきたい。 教員も監督、指示するだけでなく、生徒と一緒に身体を動かすことで、生徒の清掃・美化に取り組む姿勢や態度が前向きになることを期待する。 自分の担当場所の清掃が早く終わったときに、自発的に他の場所の清掃を手伝うといった気配りができるような指導を心がけていきたい。 机周りやロッカー等、身の回りの整理整頓がきちんとできる生徒が多い中で、一部そうしたことが苦手な生徒もいた。気づいたときに声かけをして片付けさせる習慣を身につけさせたい。 1年部や、生徒会が行った地域清掃は、地域住民との交流もあり生徒の満足度がとても高かった。今後も継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 時には”師弟同行”も効果的だと思います。 清掃の意味を根本理解させるのにとっても大事なことです。生徒の取り組みに影響します。
	4	貴重品管理	朝のSHR時に貴重品提出を徹底できたか。記録用紙に未提出者を記録したか	B	<ul style="list-style-type: none"> 貴重品・携帯電話に関しては各クラスで管理する習慣がきちんとできているので、盗難の事案もなく、携帯使用の指導がとても少ない。今後タブレットが各自所有になるので、管理の仕方を考える必要がある。 部活動時の貴重品管理について、顧問を中心に指導を徹底していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 携帯管理の徹底は、はじめがついてありがたいです。 タブレットの管理方法が課題になりますね。
	5	防災・防犯	防災や防犯の意識を向上させることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナに関する対策をしたうえで、校内での防災訓練が実施できた。地域防災への参加率が良くなかったため、次年度は生徒の防災に関する意識を高める指導をしていきたい。 台風における断水の被害に遭った清水地区から通う生徒、家族に配慮して、校内のシャワー室の貸し出しや水なしで使えるシートの配布を行った。 学校に伝えられる防犯情報については迅速に、正確にSHRで伝え、注意を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動等で参加できない生徒もいると思いますが、地域防災に参加しておくことはとても大切です。台風被害にあった生徒や家庭に対する学校や大学の支援は大変な難かったです。
	6	部活・生徒会	部活や生徒会を活発にし、生徒の育成ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 部活動では昨年同様に各自コロナ対策をし、練習に取り組むことができた。感染状況の落ち着きと共に大会、コンテストの開催も増え、生徒のモチベーションを保ちながら取り組めた。 外部コーチ、外部指導の先生方と顧問とリーダーの体制がうまく取れていた。働き方改革の観点においても、今後も連携を密にし、活動が円滑に進むようにしたい。 部活動終了後の下校時間が守れない部活があった。顧問は終了時間を徹底し、片付け・身支度等を素早くできるよう声かけを行い、速やかに帰宅するよう促したい。 生徒会活動においては、企画運営ともに生徒主体で取り組むことを意識し、教員側はあくまでヒントを与えるというスタンスで支えることを意識した。今年度は、クラスTシャツコンテスト(文化祭・6月)や大学学友会との交流(バスケットゴール披露イベントへの参加・9月)、地域清掃(10月)、あしなが学生募金活動(11月)、静岡ホームへのクリスマスプレゼント(12月)などの活動を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学との連携がとても魅力的です。外部へもこの点をもっとアピールしてもいいと思いますが。 大きな人間形成の場の1つである課外活動のあり方も考えてくださり有難い。 ⇒《学校より》 コロナ以前は大学の学友会と中・高の生徒会とが協働した活動もありました。校舎を共有しているメリットを活かし、少しずつやれることを増やしていきたいと思います。

進路指導	1	進路意識	進路行事や進路情報の提供等を通して、生徒の進路意識を高めることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに進路ガイダンスを実施した。(高3・5月、高2・11月、高1・10月)必要に応じて進路講話を行い、進路に関する情報提供を行った。今後は内容を精査し、保護者や生徒の満足度を高めたい。 ・進路が明確な者ばかりではないので、「連携講座」や「職業適性検査」を参考に、進路選択の視野を広げさせた。「3年生に聞く」も本年度は対面式で実施することができた。 ・本年度より始まった「附属高校入試」では55名の生徒が常葉大学に進学する。初年度ということで進路課を中心に丁寧に情報の共有を行っていたが、この制度は複雑でかなりの情報量を生徒・保護者に伝達していかななくてはならないので細心の注意が必要である。 ・『進路の手引き』を発行したが、来年度はPDF化してGoogle Classroomで随時見られる工夫もしていきたい。 ・「受験レポート」の活用や「面接ノート」の作成、「オープンキャンパスや大学相談会への積極的参加」は進路達成に有効である。進路室の活用を含めた啓発活動をさらに進めたい。 《中等部》 ・高校進学だけでなく、大学進学、就職など、その先を見据えた進路指導をしてきた。なぜ勉強するのか、それはどう人生を変えるのかを伝えながら高校での学び(コース選択)を意識させた進路指導を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常葉大学入学へのコースをよりわかりやすく、またふさわしい学力をつけさせ、たくさん子どもたちが常葉大学に入れるようになることを期待します。 ・「勉強ができる＝成功」ではない。もっと学問の本質に触れてほしいと思います。 ・進路選択の視野を拡大する機会は今後も増やすべきであると思います。学校での5教科にとどまらない広い視野を持つチャンスを生徒がつかめるような機会は有効です。
	2	学力対策	授業や補習、朝学習等を通して、生徒の進路達成のための学力向上ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では基礎学力の定着を心がけることに加え、調べ学習やグループワーク、NIE(新聞活用)、プレゼンテーションの機会を設けるなど「アクティブラーニング」を積極的に導入した。今後はそれらを発展させ、「探究型の授業」に取り組みたい。 ・附属高校入試に向けては高1・2年からの早期対策が有効であるため、個々に具体的な目標(例えばスタディサポートGTZでCレベル以上など)を設定させることで学習意欲の向上に結び付けた。 ・「書く力」を身につけるには時間がかかる。低学年のうちから部活動や学校行事、各種ボランティア等に積極的に参加することで視野を広げさせ、書くための内容を増やしたい。 ・意欲の高い生徒を鍛えるための学習の場や機会(補習や自習室)をもっと提供していきたい。 《中等部》 ・百ます計算や漢字の小テスト、学年の枠を取り払った補習の実施。「スタディサプリ」の確認テストやフォローアップ機能を活用し、基礎学力の定着を図った。テスト前はタブレットを貸し出し、家庭学習を充実させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高の根幹的な部分だと思っています。試験の結果は授業の結果。子どもの点数は教えた教員の点数であることを意識して、さらにより授業をめざしていただきたいと思っています。 ・わからない所があったら、恥ずかしながらに聞けるような雰囲気があるとよいと思います。子供同士でも、わかる子が教えてあげるという風に相互扶助の関係ができるといいですね。 ・どの段階で自分の目標が見えてくるかが重要だと思います。その先の進路を定めるのが早ければ早い程、少々ハードルが高くても、進路実現の可能性は高くなるでしょう。 ・早期から目標設定をすると高校1・2年時から実際に経験すべきことが具体的にになり、実行もしやすいのは確かです。
	3	学力分析	定期試験や、模試等の結果分析をすることで、生徒にアドバイスすることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディサポートを年2回行うことで学力と学習習慣の推移を分析した。クラスでの成績よりも全国での成績、弱点分野の確認を意識させた。 ・模試の結果分析シートを用いて面談を行い、学習方法のアドバイスをを行った。 ・定期テスト2週間前から、「未来手帳」を活用し学習記録をつけさせた。事前に目標を立てることで計画的に学習に取り組む生徒が出てきた。試験後は点数や反省を記入させ、振り返りを行い次のテストに向け考えさせた。確実に一歩ずつ成長していければよい。 ・試験後にGoogleFormsで反省をまとめさせ、次回の学習計画や時間管理に活かせるようにした。 《中等部》 ・テストごとに振り返りを行い結果を共有した。日常的に職員室内で、個々の生徒に合った学習方法について提案しあい、生徒に伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストが終わると、次の定期テストまであと何日あるかすぐに意識して計画的に学習していました。
	4	キャリア教育	連携講座(高校)またはキャリア講座(中学)の目的を理解し、生徒の取り組む意欲を向上させることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごと連携講座を実施して生徒のキャリア意識を向上させることができた。生徒たちは意欲的に取り組み、大学からもレポートがしっかりまとめられているとの評価をいただいた。ピアノ、オペレッタ等の表現活動に力を入れた保育講座など、専門講師からの直接指導は、生徒には非常によい刺激となった。 《中等部》 ・中学1年生は「職業調べ」などを通じて働くことの意義や自己の将来について考えさせた。 ・中学2、3年は探究活動「シズクリプロジェクト」を通して、「コミュカ」「対話力」「協働性」「情報収集能力」「問題解決能力」などを身に付けた。一人一人の意見やアイデアを併せることで相乗効果を生み、新しい発見があることを生徒が体感できたのは大きな収穫である。グループワークで企業への提案をプレゼンしたが、どのチームも非常にレベルの高い内容で、「SHIZUOKA CUP」では本校3年生がグランプリを受賞し、プレゼンテーションの力もつけていることが証明された。この活動を高校の『未来部』の活動にもつなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「シズクリプロジェクト」はすばらしいですね。自分の意見を言い、それに他の人の意見が加わることで相乗効果が生まれ、力がついてくる。人前で自分の意見が言えるというのは、自信がついている証拠なので、ぜひ学校全体で行ってほしいと思います。 ・社会に出たときに役立つ能力というのは、この欄に記載されていることかもしれません。ますますの充実を期待します。 ・専門講師から直接指導を受けられるのは常葉の特長です。今後も継続していただきたいです。
	5	資格取得	各種検定の奨励や、資格取得のための事前指導ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉漢字検定の実施。多くの生徒が受験しやすいこの試みは続けて行きたい。合格率をあげるために過去問題に挑戦させたり、弱点補強のための課題プリントを用意するなど、個別指導も丁寧に行った。 ・資格取得は、附属高校入試や推薦入試に欠かせないものになっている。学校全体でも取得の雰囲気を盛り上げ、生徒に働きかけていく必要がある。 《中等部》 ・今年度、生徒に貸与しているタブレットに英語検定・漢字検定のアプリを入れた。日常的に資格取得のための自主的な学習ができるよう奨励している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格を取得することの意義を理解して、ステップをひとつずつ上がつていく喜びを味わってもらいたいです。
	6	保護者との連携	生徒や保護者との面接を通して個別に生徒の進路意識や学習意欲を向上させることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の三者面談を実施している。時間を長めに設定し、生徒や保護者の話をじっくりと聴くことを心がけた。模試の結果(個票)を使い、今後の学習課題を話し合った。「楽に、早く、進路を決める」のではなく、しっかりと学力をつけ進路目標達成のために誠実に取り組むことの必要性を訴えた。 ・「きずなネット」や「Google Classroom」を用いることで、随時連絡や報告ができるようになったが、コロナ禍で保護者が学校に来る機会が大幅に減り、その分教員との関係性も薄れていると感じる。学校での様子や学年部の方針、教員の考え方などを伝える手段(学年通信やクラス通信の発行など)を有効に使いたい。 《中等部》 ・小さなことでも気になることがあれば即座に保護者と連絡をとり、連携を深めてきた。担任だけが抱えるのではなく、学年の隔たりなく、すべての生徒にすべての教員が関わっていく。中等部のそうした姿勢が保護者にも伝わっていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人に応じた先生方の3者面談のご準備に感動しました。 ・保護者に学校のことを理解していただく最大のポイントは、子どもたちが学校を楽しんでいると感じ、喜んで通学することです。授業はわかるか、友だちと仲良くやっているか、保護者の関心はここにつきます。それがクリアできていれば、大抵の保護者は学校に協力してくれるはずですよ。